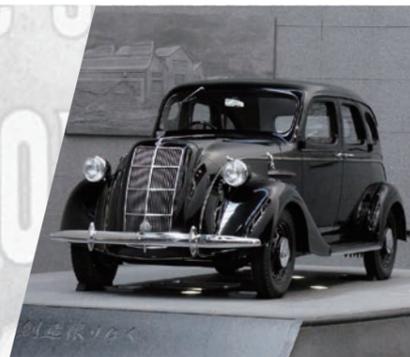


トヨタ自動車創立50周年を記念して、1989年(平成元年)に設立し、今年4月に開館30周年を迎えます。

これを機に本館は「クルマ館」、新館は「文化館」に名称を変更します。



クルマ館

世界の車約140台を中心に、自動車誕生以来の歴史を展示しています。

文化館

企画展示室では年3~4回企画展を開催しています。

クルマ文化資料室では自動車文化資料約4000点を展示します。

図書室では自動車雑誌・カタログ等を20万点保管、一部を公開しています。

2F

2F

3F

展示車両は動態保存を基本とし、年数回、走行披露を実施します。

自動車文化の継承と発展を目的としてクラシックカー・フェスティバルを開催しています。

クルマ文化資料室 Automobile Culture Showroom 4月17日(水) OPEN



30th
Anniversary

開館30周年記念
主なイベント

企画展示室

4月17日(水)~6月30日(日)
クルマ文化資料室 オープン関連展示
「馬なし馬車から自動車へ」

7月13日(土)~9月23日(月・祝)
ト博 夏フェス(仮)

10月10日(木)~4月5日(日)
30周年記念展(仮)

30周年記念トーク「移動は文化」

詳細はホームページをご覧ください

走行披露

春 5月25日(土)、6月1日(土)
秋 11月16日(土)、23日(土・祝)

クラシックカー・フェスティバル

10月下旬

愛・地球博記念公園(愛知県)にて開催予定

交通のご案内

【公共交通機関によるアクセス】

名古屋駅	地下鉄東山線(約25分)
藤が丘駅	東部丘陵線<リニモ>(約10分)
芸大通駅(トヨタ博物館前) [1番出口]	徒歩(約5分)
トヨタ博物館	

【自動車によるアクセス】

- 名古屋瀬戸道路、長久手I.Cより西へ0.4kmグリーンロード沿い
- 東名古屋I.C、名二環本郷I.Cより東へ4kmグリーンロード沿い

トヨタ博物館 TOYOTA AUTOMOBILE MUSEUM

<http://www.toyota.co.jp/Museum/>

開館時間 / 9:30~17:00(入館受付は16:30まで)
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始
入館料 / 大人1000円/シルバー(65歳以上)500円/
中学生600円/小学生400円

<30周年に感謝をこめて...>
4月17日(水)~26日(金) 30周年謝恩ウィーク(入館料半額)
5月3日(金・祝)~5日(日) 開館時間を18時まで延長(入館は17:30まで)

〒480-1118 愛知県長久手市横道41-100

TEL 0561-63-5151

f トヨタ博物館公式 Facebook いいね!



国内外の自動車に関わる文化資料4,000点を一堂に展示



カナダのナンバープレート

世界79カ国のライセンスプレート

【世界のライセンスプレート】

19世紀末にガソリン自動車が発明され、自動車が普及していくと、クルマを識別するライセンスプレートも世界各国で採用されるようになりました。世界各国で走るクルマに取り付けられているライセンスプレートを紹介します。



世界初のダイキャストミニチュアカー

《フォード モデルT(1914年/米)》

【自動車玩具】

1950年代に欧米に輸出された日本製のティントイ(ブリキ製玩具)、プラモデル、スロットカー、ミニ四駆、ビデオゲームなど約640点を展示します。
※「プラモデル」は日本プラモデル工業協同組合所有の登録商標です。



約800台のミニチュアカーによるタイムライン

ヨーロッパ、アメリカ、日本の3つのラインで展示。クルマが生まれた18世紀半ばから現代まで、そのスタイルが変化していく様子を一望します。



文学、マンガ、映画、音楽

【文学、マンガ、映画、音楽】

クルマは、移動手段、シンボル、ステイタス、ライフスタイル、モータースポーツなど、さまざまな意味を持って形を変え表現されます。ここではクルマが重要な存在として描かれている文学、マンガ、映画、音楽を展示・紹介します。

世界初のモーターショーのポスター

《パリ自動車ショー(1985年/仏)》

【自動車ポスター】

当館では約300点のポスターを所蔵しており、それらを自動車メーカー、自動車部品・用品メーカー、モーターショーなどのテーマ毎に約30点展示します。
※作品保護のため3か月ごとにテーマに沿って作品を入替展示します。



世界初の自動車切手

《コロンビア号(1901年/米)》

【自動車切手】

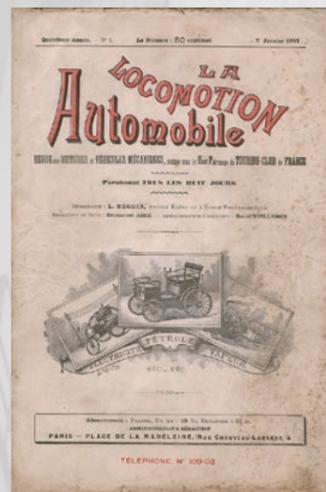
自動車切手は、現在までに世界で1万5千種以上発行されています。ここでは世界初の自動車切手を含む約1200点を展示します。

世界初の自動車雑誌

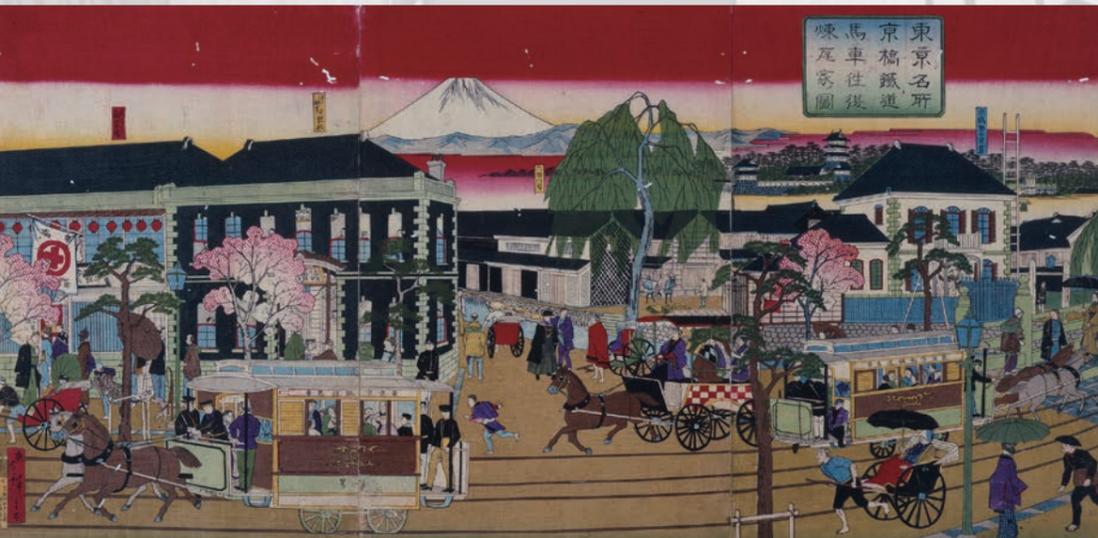
《La Locomotion Automobile(1894年/仏)》

【自動車と出版物(自動車雑誌・カタログ)】

20世紀を中心にヨーロッパ、アメリカ、日本で創刊した自動車雑誌の変遷やカタログ150冊を紹介します。



新しい乗り物の登場 《東京名所京橋鉄道馬車往復煉瓦家ノ図(1882年/日)》



【昔の出版物に見る乗り物文化(錦絵、引札、うちわ絵、すごろく)】

開国そして明治維新により、江戸時代までにはなかった馬車や人力車、鉄道などの乗り物が登場します。交通手段が近代化していく様子を色鮮やかに描いている錦絵などを紹介します。

※錦絵は作品保護のため、1か月ごとに作品を入替展示します。



ルネ・ラリック製作 全29種類 全点公開

《勝利の女神(1928年/仏)》

【カーマスコット】

カーマスコット約180点を展示します。特にフランスのガラス工芸家ルネ・ラリックが製作したガラス製カーマスコット全29種類の常設展示は世界でも稀といわれています。



約400点のカーバッジ

【カーバッジ】

カーバッジは自動車メーカーにとってブランドイメージそのものです。自動車生産に関わった多くの人々の情熱がこめられたバッジ約400点を展示します。

移動は文化

移動は文化をはぐくみ、文化は移動をいざなう

トヨタ博物館 開館30周年 クルマ文化資料室 をオープン

当館は1989年4月の開館以来、自動車(実車)だけではなく、国内外の自動車文化の関連資料も収集してきました。収集数は、書籍、雑誌、カタログが約20万点、その他の資料は約1万5千点にのぼります。「クルマ文化資料室」では「移動は文化」をテーマに約4000点の文化資料を一堂に展示します。

「クルマ館」での自動車約140台による展示が自動車の「作り手(メーカー)」が紡いできた歴史であるのに対し、「クルマ文化資料室」は実物の「クルマ」は1台もありません。世に送り出された「クルマ」が、どのように社会に受容され、どのようなイメージで表現されていったのか、その軌跡をたどります。約800台のミニチュアカーから構成されるタイムラインを軸として、世界初のモーターショーのポスターや、世界初のダイキャストミニチュアカーなど多様に織りなされたクルマ文化のありようをご紹介します。

自動車産業は現在、百年に一度の転換期を迎えていると言われ、トヨタも「モビリティカンパニー」に生まれ変わると宣言しています。今後「移動」も「文化」もますます多様に広がっていくでしょう。この展示室が、自動車と文化がともに成長してきた歴史を皆さまとともに学び楽しめる場となることを願っています。